

伸縮ゲート

ご使用前に確認してください

- 必ず、「安全にお使いいただくために」を確認したうえでご使用ください。

お願い

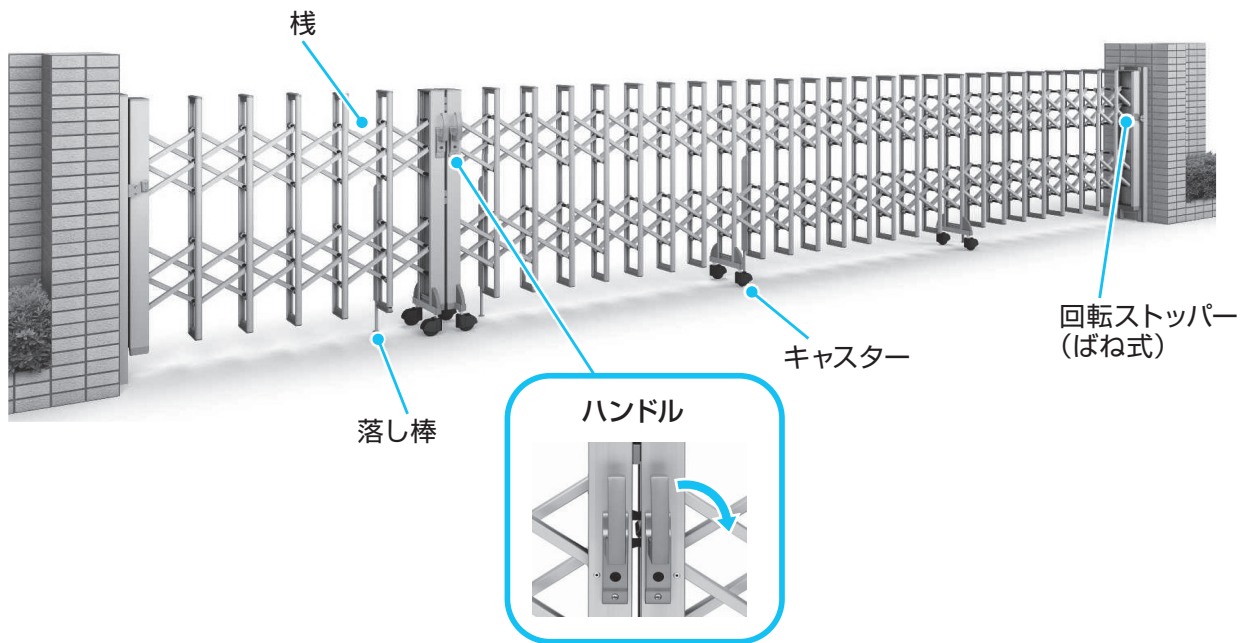
- ゲートは所定の扉幅以上に伸ばさないでください。
無理に伸ばすと、商品の破損や故障につながるおそれがあります。
両開きの場合、受け側の扉は落とし棒と落とし棒受けの位置を目安に操作してください。

- お手入れ方法については「お手入れ・調整方法」を参照してください。

種類・各部の名称

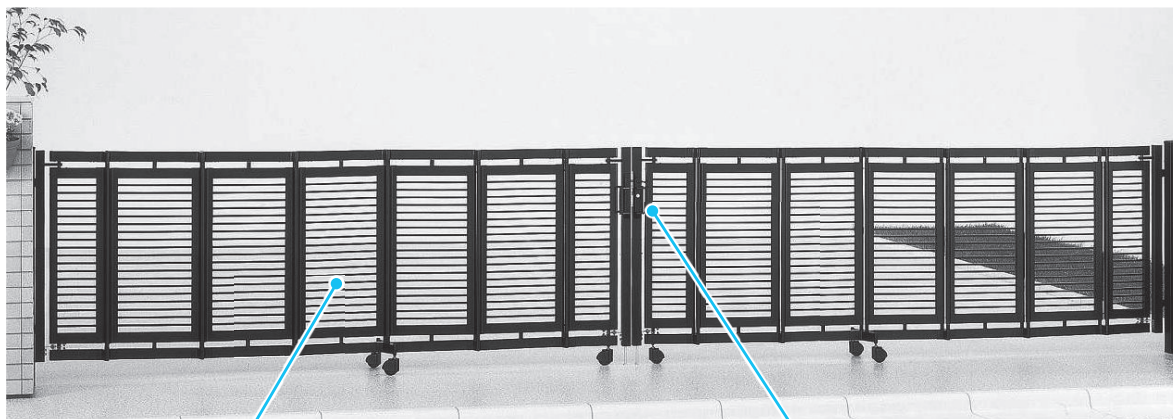
●垂直パンタタイプ

棧をつなぐパンタグラフによって伸縮し、開閉します。



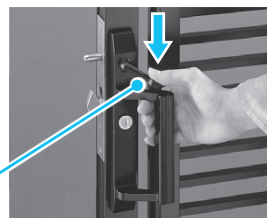
●水平パンタタイプ

上下のパンタグラフが伸縮し、開閉します。



パネル

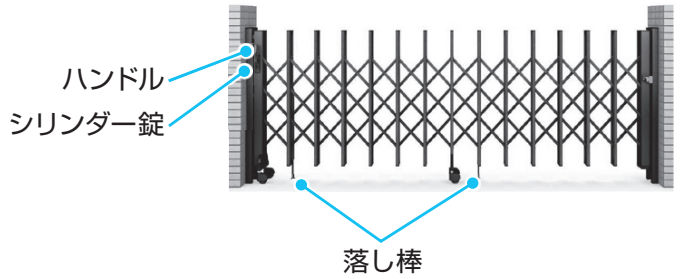
ハンドル



レバー

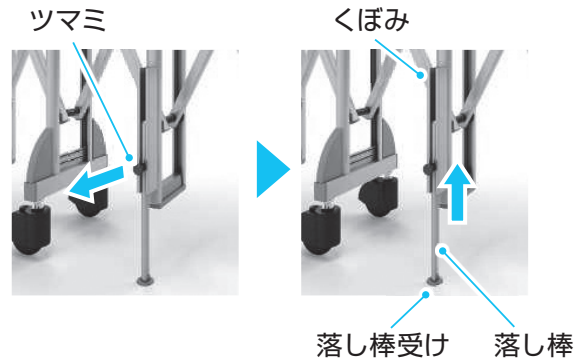
垂直パンタタイプの開け方

落とし棒の数は、扉の幅によって異なります。



1 落とし棒を上げる

落とし棒のツマミを引き、くぼみに引っかかるまで上にスライドさせます。



2 錠を解錠する

カギを奥までしっかりと挿し込み、90°まわして解錠します。



お願い

- カギを奥まで挿し込む前にまわさないでください。カギが破損するおそれがあります。
- 誤ってカギを落とすなどして、砂やホコリが付着した場合は、使用する前にお手入れをしてください。(→お手入れ・調整方法)の「カギ・カギ穴」)。そのままカギ穴に挿し込むと、作動不良や故障の原因となります。
- 挿し込んだカギを持ってゲートを開閉しないでください。カギが曲がり、使用できなくなるおそれがあります。

3 カギを抜く

カギを解錠した位置のまま、ゆっくりカギを抜きます。

4 ゲートを開ける

ハンドルを開ける方向にまわし、ゲートを開けます。

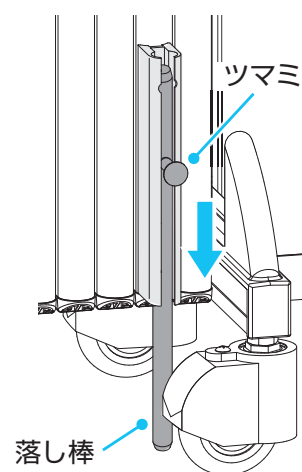


5 先端の落とし棒を下げて固定する

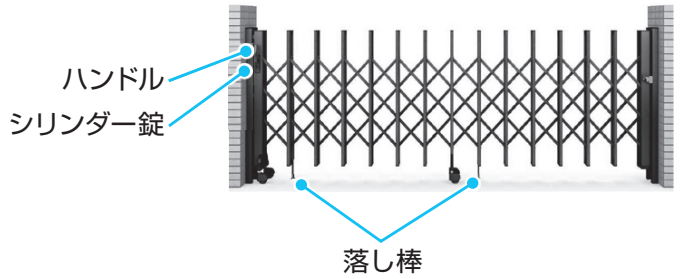
ゲート本体をたたみ、先端落とし棒を下げて固定します。落とし棒のつまみを引き、下限までスライドさせます。

※落とし棒を落とし棒受けの奥まで確実に入れてください。

※回転収納する場合は、「**■**間口を広げる方法」を参照してください。



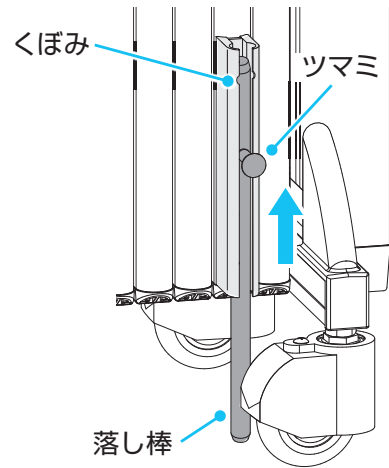
垂直パンタタイプの閉め方



1 先端の落とし棒を上げる

落とし棒のつまみを引き、くぼみに引っかかるまで上にスライドさせます。

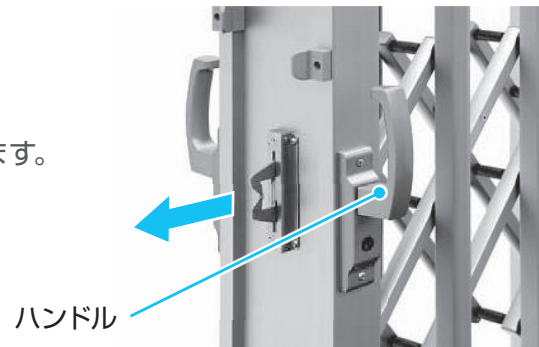
※回転収納していた場合は、「■ゲートの復帰方法」を参照してください。



2 ゲートを閉める

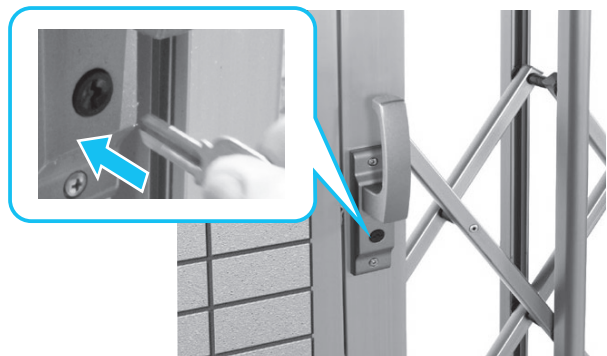
ハンドルを持ってゲートを閉めます。

※完全に閉めると、カマが受けにかみ合います。



3 シリンダー錠を施錠する

カギを奥までしっかりと挿し込み、90°まわして施錠します。



お願い

- カギを奥まで挿し込む前にまわさないでください。
カギが破損するおそれがあります。
- 誤ってカギを落とすなどして、砂やホコリが付着した場合は、使用する前にお手入れをしてください。(→お手入れ・調整方法)の「カギ・カギ穴」。
そのままカギ穴に挿し込むと、作動不良や故障の原因となります。

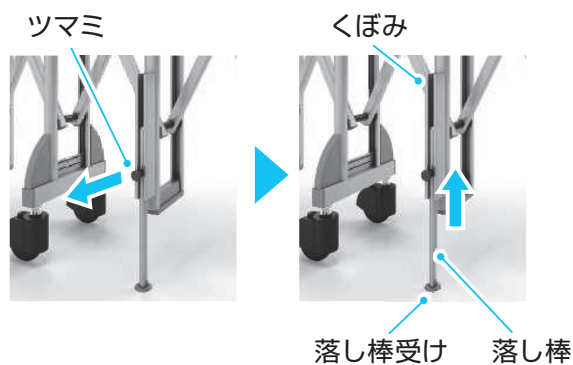
4 カギを抜く

カギを施錠した位置のまま、ゆっくりカギを抜きます。

5 落とし棒を下げて固定する

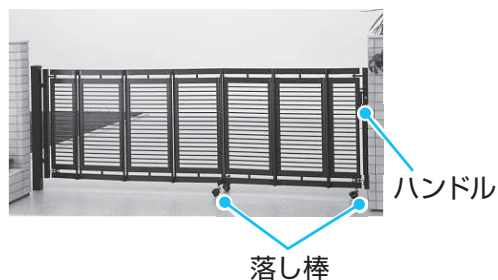
落とし棒のつまみを引き、
下限までスライドさせます。

※落とし棒を落とし棒受けの
奥まで確実に入れてください。



水平パンタタイプの開け方

落とし棒の数は、ゲートの幅によって異なります。



第3章

● カギを紛失した場合は、防犯のため、カギの交換をお勧めします。

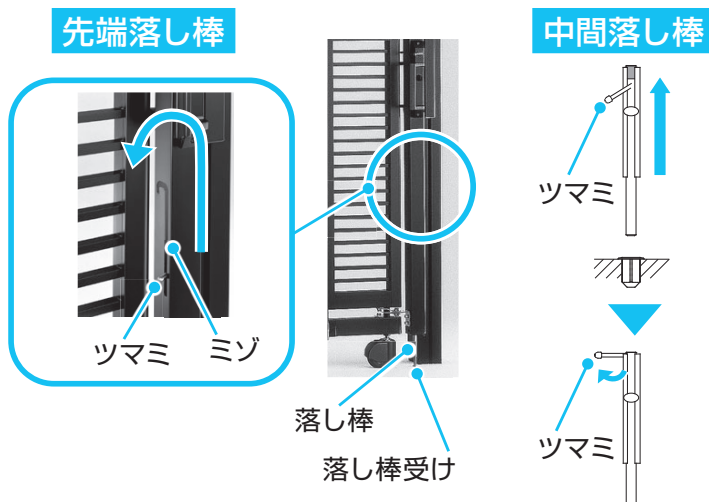
1 落とし棒を上げる

先端落とし棒

先端落とし棒のつまみをミゾに沿って上げます。

中間落とし棒

中間落とし棒のつまみを上限までスライドさせ、左に90°まわします。



2 錠を解錠する

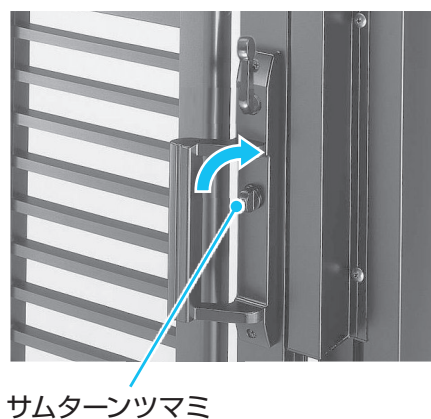
家屋側から操作する場合

サムターンつまみを90°まわし、解錠（タテ向き）します。

道路側から操作する場合

カギを挿し込み、90°まわして解錠し、元の位置までまわしてカギを抜きます。

※ゲートの開き勝手などにより、回転方向が図とは逆の方向になる場合があります。



お願い

- カギを奥まで挿し込む前にまわさないでください。カギが破損するおそれがあります。
- 誤ってカギを落とすなどして、砂やホコリが付着した場合は、使用前にお手入れをしてください。(→お手入れ・調整方法)の「カギ・カギ穴」。そのままカギ穴に挿し込むと、作動不良や故障の原因となります。
- 挿し込んだカギを持ってゲートを開閉しないでください。カギが曲がり、使用できなくなるおそれがあります。

門
まわり

車庫
まわり

庭
まわり

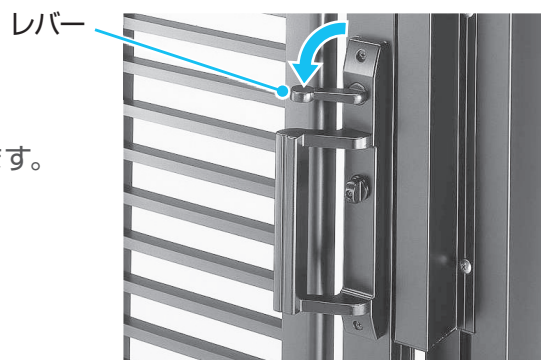
使
い
方

3

レバーをヨコにする

レバーをヨコに 90°まわします。

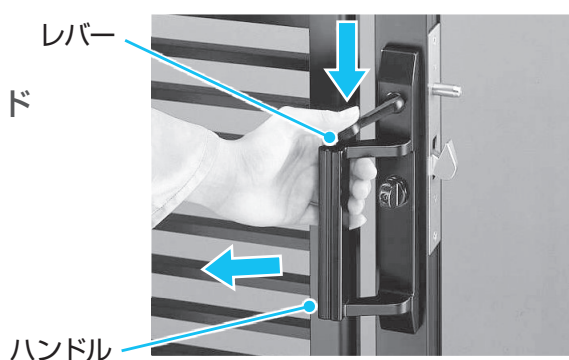
※カマと受けの引き寄せ機構が解除されます。



4

ゲートを開ける

レバーを下げながらハンドルをスライドさせてゲートを開けます。

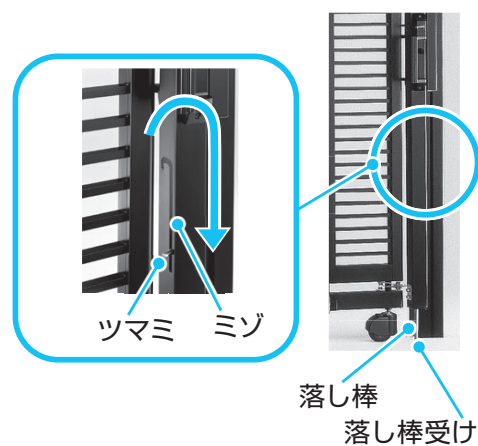


5

落とし棒を下げる

先端落とし棒のつまみをミゾに沿って下げます。

※落とし棒を落とし棒受けの奥まで確実に入れてください。



水平パンタタイプの閉め方

第3章

門
まわり

車庫
まわり

庭
まわり

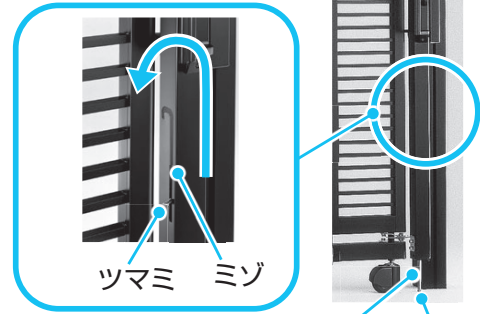
使い
方



落とし棒

1 落とし棒を上げる

先端落とし棒のつまみを
ミゾに沿って上げます。

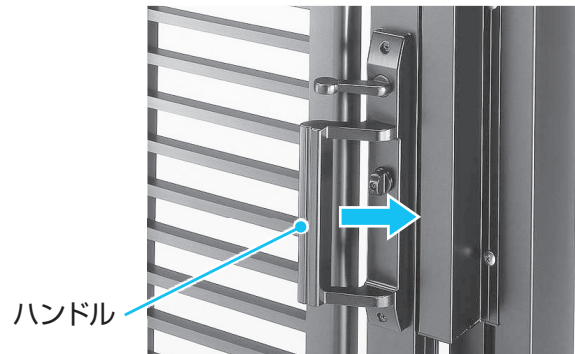


つまみ ミゾ

落とし棒
落とし棒受け

2 ゲートを閉める

ハンドルを持ってゲートを閉めます。

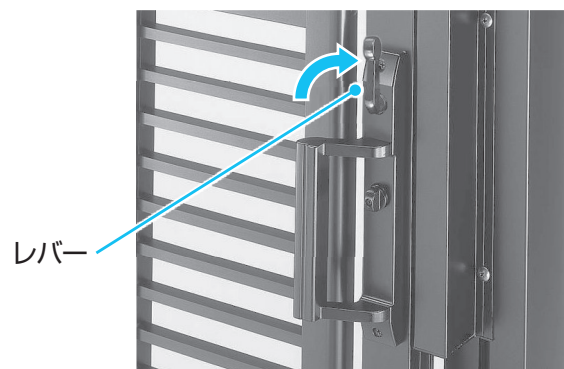


ハンドル

3 レバーをタテにする

レバーを上を90°まわします。

※カマが受けにしっかりかみ合い、
ガタつきが抑えられます。



レバー

4 錠を施錠する

家屋側から操作する場合

サムターンツマミを90°まわし、
施錠（ヨコ向き）します。

道路側から操作する場合

カギを挿し込み、90°まわして施錠し、
元の位置までまわしてカギを抜きます。

※ゲートの開き勝手などにより、回転方向が
図とは逆の方向になる場合があります。



サムターンツマミ

お願い

- カギを奥まで挿し込む前にまわさないでください。
カギが破損するおそれがあります。
- 誤ってカギを落とすなどして、砂やホコリが付着した場合は、使用する前
にお手入れをしてください。(→お手入れ・調整方法」の「カギ・カギ穴」)。
そのままカギ穴に挿し込むと、作動不良や故障の原因となります。

5 落とし棒を下げる

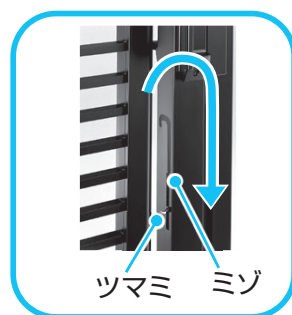
先端落とし棒

先端落とし棒のツマミを
ミゾに沿って下げます。

中間落とし棒

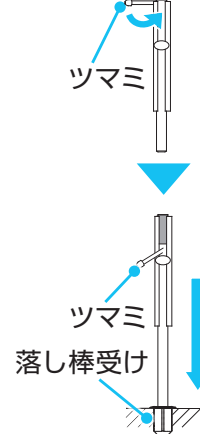
中間落とし棒のツマミを
手前に90°まわし、
下限までスライドさせます。

先端落とし棒



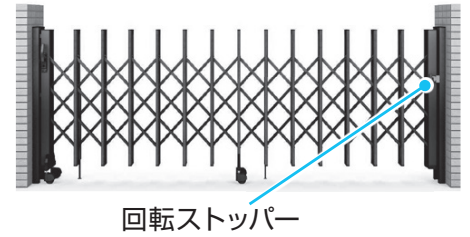
落とし棒
落とし棒受け

中間落とし棒



間口の広げ方

ゲート本体をたたんだ状態で回転させるとさらに開口部が広がります。



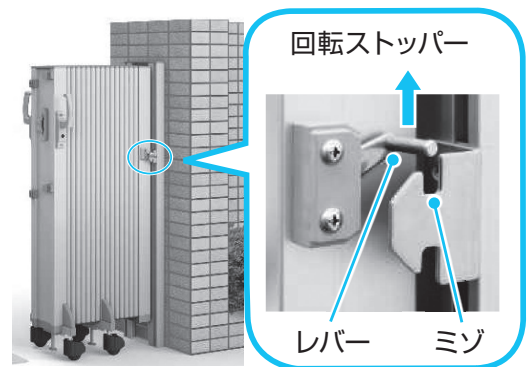
⚠ 注意

- ゲートを回転し、間口を広げた場合は、必ず落し棒で固定してください。固定しないと、風などでゲートが急に開閉し、人や物に衝突するなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。

■ 間口を広げる方法

1 回転ストッパーをはずす

ゲートを開けた状態で、回転ストッパーのレバーを上げます。



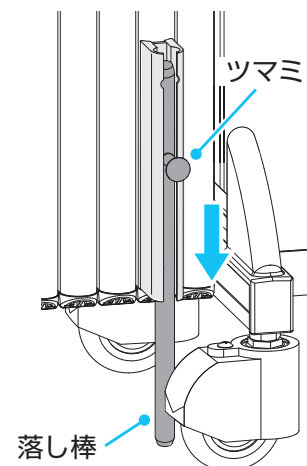
2 ゲートを回転させる



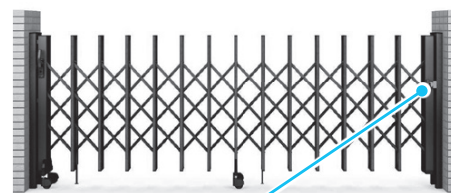
3 先端の落し棒を下げる

落し棒のつまみを引き下限までスライドさせます。

※落し棒を落し棒受けの奥まで確実に入れてください。



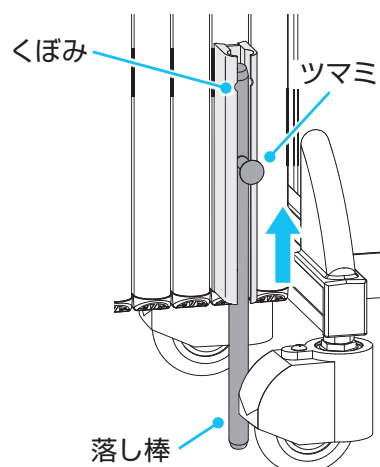
■ゲートの復帰方法



回転ストッパー

1 先端の落とし棒を上げる

落とし棒のつまみを引き、くぼみに引っかかるまで上にスライドさせます。



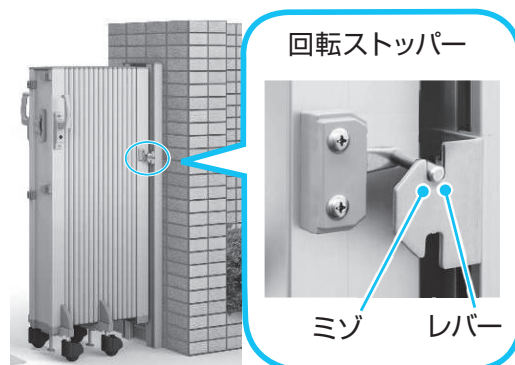
2 ゲートを回転させて元の向きに戻す

※ 完全に回転させると、回転ストッパーのレバーがミゾに入り、固定されます。



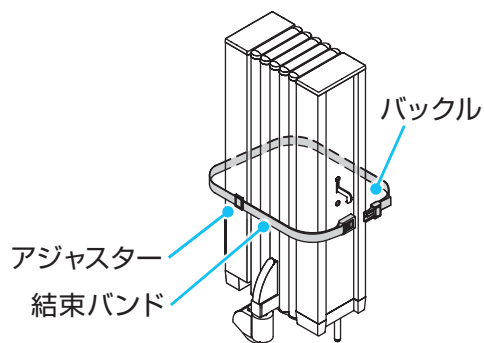
3 回転ストッパーを確認する

回転ストッパーのレバーがミゾに入っていることを確認します。



結束バンドの使い方（オプション）

結束バンドでゲート本体を束ね、
たたんだ状態で広がらないようにできます。
ゲート本体のサイズに合わせ、結束バンドの
長さを調節してご使用ください。

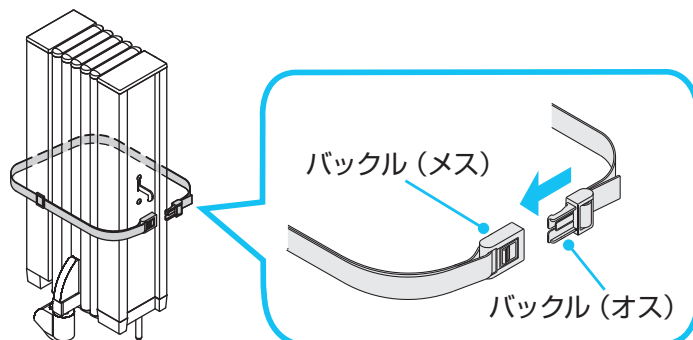


■取り付け方

1 結束バンドで伸縮ゲートを束ねる

2 バックルを挿し込む

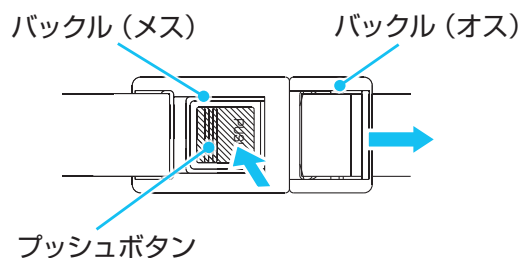
バックル(オス)をバックル(メス)にカチッというまで挿し込みます。



■取りはずし方

1 プッシュボタンを押す

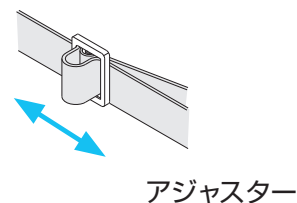
バックルのメスとオスがはずれます。



2 結束バンドを伸縮ゲートからはずす

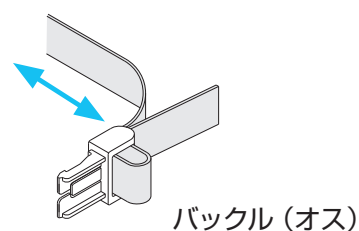
■バンド長さの調整方法

1 アジャスターの位置を調節する



2 バックル（オス）の位置を調節する

※バンドが長い場合は、伸縮ゲート本体に二重に巻いてください。

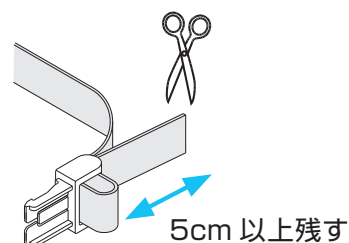


●バックル（オス）を調節して余ったバンドをカットする場合

1 余ったバンドをカットする

バックル（オス）から、5 cm以上長さを残して、余ったバンドをハサミでカットします。

※カットすると元に戻せません。短くしすぎないように注意してください。



2 ほつれ防止のため切断面に火をあてる

⚠️ 注意

- バンドの切断面を火で炙った直後は、炙った箇所が高温になっているため、触らないでください。やけどをするなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。また、炙りすぎないように注意してください。

